



事務局広報発行:H29 年度 都図研ニュース

11・12月号

理事長 平田耕介 事務局長 柴田芳作  
11・12月号編集担当 広報部長 渡辺裕樹



研修局からの告知!

H30.1.23

研修II

『絵の世界には・・・』A表現(2) 4年生

です。(修会 I に申し込まれた方は不要です。) やむを得ない事情で欠席される場合は、必ず事前にご連絡ください。

日時:平成30年1月23日 13:15 受付、13:45~16:45 場所:立川市立第一小学校 図工室とそのまわり

岡部 哲(中央:月島第一小)

都図研ゼミから公開授業のお知らせ

日時:1月29日(月) 14:00~

会場:調布市立深大寺小学校 【5学年平面】

授業者:橋田香織先生 講師:南育子先生

公開  
授業

起点となるテーマや行為がある題材が多いと思いますが、あえて子供にテーマや内容をゆだね、表現においては、2枚以上の関係性をもつての表現活動とすること以外は自分で決定して表す題材の提案です。講師には、指導教諭の墨田区立業平小学校、南育子先生をお呼びしています。子供がどのように開かれ表現に向かっていくか、ぜひ授業のスタートからご覧いただき、南先生の指導講評とともに、ゼミ生とみなさまの明日への図工に繋がる会となりますと幸いです。

都図研ゼミ担当 田中 明美(品川:立会小)

大会レポート!

私っていいな!!

つながる ひろがる アート “響・同・帯”

H29.11/17,18日開催

11月17・18日に長野県佐久市・軽井沢町にて、第70回全国造形教育研究大会・第57回関東甲信越静地区造形教育研究大会が行われました。研究授業公開(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・美術館)や分科会発表、70周年を記念してのシンポジウム、文科省教科調査官の岡田京子氏と東良雅人氏を交えたパネルディスカッションなど、2日間に渡り、これからの造形教育に向けた熱い議論が展開しました。

東京都からは、昨年度西多摩大会の大会実行委員長である笠井哲氏(青梅市・藤橋小)より大会時の授業実践が発表されました。「図画工作科の特性とは、自分のやりたいことを自分のやり方でみつけ出し、多様な価値を通じて、新たな価値をつくり出すことができること一。子供が主体的創造性を発揮しながら、つくり出す喜びをもって多様な表現の広がりを生み出せるように、教師が常に、実際の子供たちの姿から日々考えることが大切である。」と語られました。

本大会は、第71回目を迎える長野県美術教育研究大会でもあります。「未来を担う子供たちが楽しく活動しながら、感性や創造的な思考を磨き、自己肯定感を高め、見方や感じ方を深め、豊かな情操を培うことができるようにしたいと願い、これまで研究を重ねてきた一。」土屋敏行大会長の言葉通り、長野県は造形教育において大変熱い研究がなされてきました。新指導要領を踏まえて、主体的・対話的で深い学びをつくり、常に子供の育ちを中心に添えて、造形的な見方感じ方が、これからの子供たち自身の生活を豊かにする力となる研究でありたいという土屋氏からの強いメッセージが心に残る大会でした。

副事務局長 堀江 美由紀(葛飾・こすげ小)



# 今年の 都展



について

お知らせします！

今年度の東京都公立学校美術展覧会(都展)は大きな変更点があります！！

## ①会期の変更

2/8~2/14 → 2/12 搬入 2/13~2/18

## ②出品者目録の廃止

## ③事前搬入・搬出時間帯指定の実施

また出品の手違いや展示作品の落下や破損等の防止のために事業部ではチェックリストを作成し、各市区町村図工部都展担当者の方に配布しました。都教委から送付されてくる要項と合わせて有効に活用していただき、円滑な都展運営にご協力お願いいたします。最後に今年度は変更点が多々ありますので各市区町村内での共通理解を図るようによろしくをお願いいたします。

詳しくは、都図研ホームページ

<http://tozuken.com/>

をご覧ください！

都展  
(事業部)

事業部長 菅野 光洋 (新宿：市谷)

～お知らせ～ 今年度、突撃！となりの図工室は、各地区(計8ブロック)の図工専科から取材を行います！取材して欲しい図工室がありましたら、紹介してください！

リレー連載 A

## 突撃！となりの図工室 南多摩「町田市立藤の台小学校の図工室」

学校でひとつの図工室。普段はなかなか見ることのない他校の図工室を訪れて、気になる所を突撃取材！

第6回目の訪問先は南多摩ブロックより押山勇斗先生(町田・藤の台小)の図工室です。

町田駅からバスに乗って20分。バス停から歩くこと10分。東京とは思えない小高い丘に囲まれた学校。その長い階段を昇り4階に着くと、目の前に「藤の台小学校 ミニ美術館」が現れる。ゴッホからポロックまで、時代や作風の異なるたくさんの絵画が飾られている。そこには、題名も作者も書かれていない。その代わりに、「作者やタイトルなどなど、気になったらどんだん絵のことを聞きに来てくださいね！」とメッセージが添えられていた。そして、同じ掲示板に「図工室つかえます。」と書かれている。ここが藤の台小の図工室。いつでもウェルカム！何でも聞いて！という雰囲気が、押山先生らしい。

図工室に入ると、整然と用具が棚に並べられていた。「そんなに難しい用具は置いてないでしょ。覚えられるだけの数、使いやすい用具を最低限絞って、子供の目に見える場所に置いているんです。」と話す。なるほど。シンプルでわかりやすい。そして、きれいだ。

押山先生の図工室を見て、一番のインパクトは、何とんでも、図工室での心得から、電ノコの使用手順、ドアの開閉方に至るまで、貼られている注意書きの多さ！その全てが図工室のキャラクター「シロクマクマ男くん」(ときどきゴリラもいた)に吹き出しが添えられて書かれているから、嫌味がない。黒板には、活動の目当てと活動の日程が、これまたクマ男くんのセリフとして丁寧に書かれている。しかし、それにしてもなぜこんなに注意書きが多いのですか？と恐る恐る尋ねてみると、即答。「授業で余計なことは話したくない。導入は3分で終わらせたい。活動で子供を育てたいんです！」と熱っぽく語る。その表情は、シロクマクマ男くんそのもの！なるほど、押山先生の思いの溢れる図工室で、子供達は安心して活動に取り組んでいるのだらうと感じた。

取材担当者：事務局 広報担当/取材担当者：渡邊 裕樹(昭島：つつじが丘小)



<特別委員会/教科提案部からのお知らせ>

教科提案部 橋田 朋憲 (小平・第三小)

2/16(金)に教科提案部として小平市立第三小学校で研究授業・提案発表をします。題材名は「おもしろいへ向かう～つなぐ～」です。自分で自分の「おもしろい」を見つけ・表す活動のきっかけとして、学年のテーマである「つなぐ」という言葉を配し、卒業を前に6年間の集大成として何を表すか児童に聞きたいと思っています。また当日は協議会で、授業のことはもちろんのこと、図工という教科や、図工に携わる教員としての姿について、授業や児童の活動からみなさんと紐解いていきたいと考えています。ぜひお越しください。